

長野農業農村支援センターだより

令和6年7月号

「第4回 須高果樹セミナー ぶどう房切り講習会」を開催しました！



房切り後の栽培管理の説明



房切り（花穂整形）の実演

5月27日に、須坂市のぶどうほ場にて「須高果樹セミナー」の房切り講習会を開催しました。

このセミナーは、J Aながの須高営農経済センターと長野農業農村支援センターが共催で毎年開催しており、今年度は41名の受講申し込みがありました。主に須高管内において就農研修中や、就農後間もない方、今後果樹栽培に取り組んでみたい方などを対象に、栽培の基礎知識や技術を学んでいただくことを目的としており、今年度は4月17日から開催し、今回が第4回で26名の方が参加されました。

ぶどうの房切り（花穂整形）は、開花前に実施する重要な作業になります。実演により本作業の基本を説明した他、本年は「シャインマスカット」などの欧州系品種を中心に、主穂先端部が団子状に固まるなどの奇形穂が多いため、上部支柄の利用に切り替えるなどの応急的技術についても詳しく説明しました。

説明後、受講者は各班に分かれ、班ごとにJ A技術員や普及指導員の指導受けながら、実際の作業を体験しました。質疑・応答も活発に行われ、大変有意義な講習会となりました。今後も、受講生にぶどう栽培の基本技術について理解を深めていただけるセミナーとなるよう努めていきます。

発行 長野農業農村支援センター 技術経営普及課

〒380-0836 長野市大字南長野南県町 686-1

電話 026-234-9536 FAX 026-235-8393

Eメール nagano-aec@pref.nagano.lg.jp

URL <http://www.pref.nagano.lg.jp/nagachi/nosei-aec/index.html>

目 次

○農作物の生育状況

- ・ 6月15日現在 1

○農作物技術情報(6月)

< 作物 >	3
< 果 樹 >	6
< 野 菜 >	10
< 花 き >	12
< 畜 産 >	14
< き の こ >	16

○地域のできごと

- ・ 果樹栽培管理講習会を開催しました 17
- ・ 大岡ふるさと協議会設立総会が開催されました 18

○農業農村振興課から

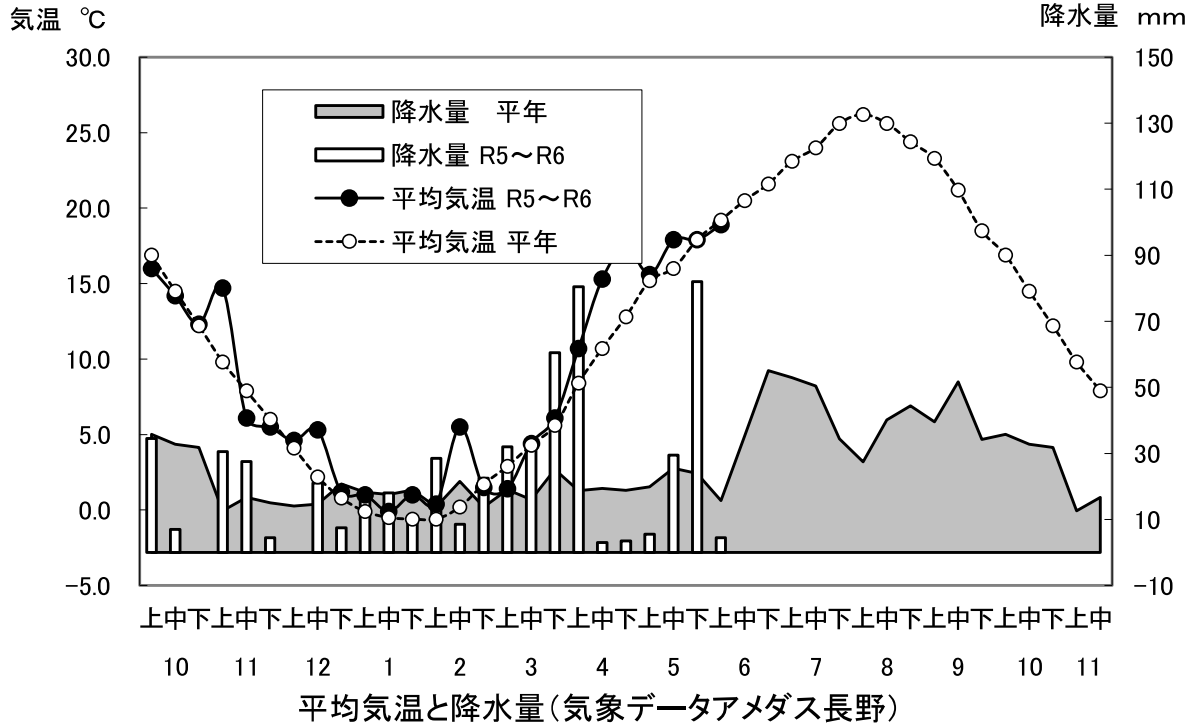
- ・ ツキノワグマの生態について 19
- ・ みつばちへの危被害を防ぎましょう 20
- ・ 環境にやさしい農業認定制度について 21
- ・ 信州の環境にやさしい農業定着・拡大支援事業 申請者募集中! 23

農作物の生育状況（6月15日現在）について

令和6年6月15日

長野農業農村支援センター

【気象データ】



【麦類】

大麦シュンライは平年より5日程早い5月26日から収穫が開始されたが、細身のものが多く歩留まりが悪い。小麦は平年より7日程早い6月12日から収穫が開始されている。3月～4月上旬の降水量が多かったことから排水不良ほ場を中心に湿害が見られた。また、5月中旬および5月28日の降雨により千曲市のユメセイキおよび長野市南部のハナチカラで広い範囲で倒伏が発生した。

コムギ赤かび病の防除は、千曲市で5月上旬、長野市南部で5月中旬に実施され、5月29日に千曲市土口の奨励品種決定ほ場で感染好適条件が発現した。その後の巡回調査では長野市若穂でわずかに発生が確認された。

【水稲】

高温による焼けの報告が平年より多く、苗箱1,000枚規模の被害が複数件発生した。また、苗の伸びが旺盛なため節水した結果、乾燥で根上がりを起こす事例も見られた。一部では徒長苗の植え傷みや深植えによる初期生育の遅れが報告されている。

他県で生産された「にじのきらめき」種子を導入した地区では、出芽が遅れ対応に苦慮したが、大半は移植できる見込み。なお、長野市南部のGW明けに代かきをする地域では4月の降水量不足により代かきがやや遅れたが、その後の降雨で改善された。

【果樹】

「ふじ」の6月17日肥大調査では前年比縦100%、横101%、平年比縦115%、横113%と前年と同様で平年を上回っている。ほ場、樹、枝単位の隔年結果の発生、「ふじ」のカラマツが散見される。また、5月10日の低温の影響による“さび”が散見される。病害虫ではアザミウマ類による果面被害、アブラ

ムシの発生が多くなってきている。

(2) ぶどう

ぶどう「無核巨峰」の満開は6月1日で、平年より4日早く、昨年より4日早かった。同一品種内の生育にバラつきがみられるが、品種による生育進度の差が小さい。

(3) なし

「南水」の6月17日肥大調査では前年比縦122%、横99%、平年比縦131%、横107%と平年を上回っている。

(4) 核果類

「川中島白桃」の6月17日肥大調査は前年比縦106%、横103%、平年比縦108%、横106%と前年及び平年を上回っている。せん孔細菌病の春型病斑は平年並みの発生状況である。

【野菜】

(1) アスパラガス

平垣部及び準高冷地帯の半促成作型（施設）、露地作型はいずれも立茎中であり、一部で夏どりが開始されている。露地では降水量が若干少なかったことから、夏芽の萌芽は少ない傾向である。

(2) 果菜類

半促成加温作型のキュウリの生育は、収穫後期となっている。無加温の作型は夜温が低く推移していたこともあり、生育は遅れた。半促成加温作型トマトの生育は、ほぼ順調であり、収穫中である。概ね特筆すべき病害虫の発生は見られていない。

ピーマンの収穫が各地で始まっている。着果数は少ないものの、比較的縦長の大果が多い傾向があった。

【花き】

(1) トルコギキョウ

夜温、朝の気温が低かったことから、平年よりも1週間から10日程度生育が遅れている。病害では、フザリウム、ピシウム菌による立ち枯れの発生が目立っている。

(2) コギク

4月下旬の台刈以降、降水量が少なく乾燥気味であったことから、草丈の伸びが悪い傾向である。草丈が短いまま花芽をつけている品種もあり、品質低下が懸念される。

作物

【水稻】

1 中干し と 水管理

中干しは、田植後ずっと湛水状態だった水田土壤中に酸素を送ることで、有害ガスを抜き、窒素吸収を抑制する効果があります。これにより下記の効果が期待されます。

- 遅れて発生する分げつの抑制、下位節間の伸長抑制による倒伏防止
- 根腐れの防止、根張りの向上、これによる生育後半の稲の活力維持
- 秋の作業に向けた地耐力の向上

中干しは、目標とする穂数と同等の茎数を確保したら開始します。田植え約1か月後を目安に、水田の中でも平均的な生育の株を選び、茎数を数えます。㎡当たり400本の穂数を確保するためには、以下の茎数が確保されている必要があります。

- 株間21cm(16株/㎡)の場合、1株当たりの茎数が概ね25本、
- 同様に株間18cm(18~19株/㎡)の場合、株当たり21本

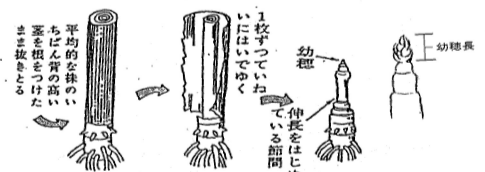
概ね株当たり20~25本確保できたタイミングが、中干し開始の適期です。

中干しは田面がぬからず、足跡がつく程度(1cmくらいめり込む程度)まで行います。田面に大きなひび割れが多発する・田面が白く乾くような「強い中干し」は地中で断根を招き、その後の生育に悪影響を及ぼすことがあるので行いません。適度の中干しを行った後は、幼穂形成期(出穂25日前)まで間断灌水(入水→自然減水→足つぽに水が残る程度→入水)を行います。幼穂^{*}形成期から出穂期^{*}は、稲が最も水を必要とする時です。降雨などにより土壌が乾かない場合でも、幼穂形成期までには中干しを終了しましょう。晩植などで茎数確保に時間がかかり、幼穂形成期前に中干しを行えなかった場合は無理に行う必要はありません。また、中干し後水持ちが維持できないような漏水田や、夜間の地温の低下が心配される寒冷地域でも無理に行う必要はありません。

※幼穂は、ほ場内の平均的な株から、中でも最も長い茎を取り、

葉鞘をはいで確認するか、真ん中からカッターなどで割るなどして確認します。

※出穂期とは、全体の4~5割の茎から穂の頭がのぞいた時期をいいます。



2 追肥

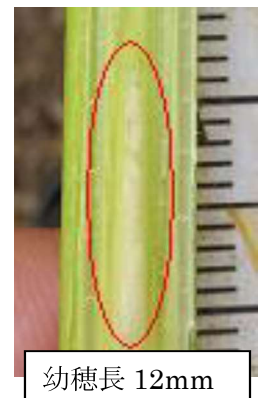
(1) ケイ酸カリの施用

出穂40日前頃にケイ酸カリを施用すると、倒伏を軽減し登熟を向上、また、いもち病にも強くなる効果が期待できます。施用量は20~40kg/10a程度です。

(2) 穂肥 (一発肥料の方は不要です)

この時期の追肥は穂肥とも呼ばれ、幼穂形成期~穂ばらみ期に施用します。早い時期の施用は穂数や粒数の増加に、遅い時期の施用は登熟歩合や粒重の増加に効果があります。穂肥は幼穂長を確認し、適期に施用しましょう。

- もちひかり、ふくおこし(主食用): 出穂25日前頃、幼穂長2mm期
- あきたこまち、ひとめぼれ、酒米: 出穂20~18日前頃、幼穂長5~10mm期
- コシヒカリ、風さやか: 出穂18日前頃、幼穂長10mm期



施用量は、一般に窒素成分で0.5～2kg/10aですが、生育状況によって異なります。例年の施用量、本年の生育や品質を考えあわせて、施用量を決定します。遅すぎる追肥は、食味に悪影響を及ぼしますので、追肥は出穂10日前（幼穂長15cm）までに行うようにします。

表1 幼穂発達段階の区分と追肥の効果（出典：主要穀類等指導指針 平成31年3月発行）

	発達段階の区分	出穂前日数	幼穂長	葉耳間長	追肥の効果
幼穂形成期	1 穂首分化期	-32			穂数、一穂粒数は増加するが、下位節間が伸長して倒伏・生育遅延等による登熟歩合の低下を伴う。
	2 枝梗分化期 ・一次枝梗分化期 ・二次枝梗分化期	-30 -28	0.5～1mm		
	3 穎花分化期 ・穎花分化始期 ・穎花分化中期 ・穎花分化後期	-25 -20 -19	1～2mm 2～5mm 8mm		
穂ばらみ期	4 花粉母細胞分化期 (減数分裂準備期)	-18	8mm～1cm		粒穀の肥大（玄米千粒重の増加）と登熟歩合の向上に有効。ただし、単位面積当たりの粒数増は期待できない。
	5 減数分裂期 ・減数分裂始期 ・減数分裂盛期 ・減数分裂終期	-15 -10 -5	5cm 15cm 20cm	-10cm 0cm +10cm	
	6 花粉形成開始期		全長に近づく	+10～12cm	稲体窒素含量が低い場合には登熟歩合が向上する。しかし、玄米のタンパク質含有率を高めて食味を低下させる。
	7 花粉完成期		全長に近づく		

3 病虫害対策

(1) いもち病

上位葉での「葉いもち」の多発は「穂いもち」の感染源となり、減収や品質低下の原因となります。

いもち病の感染には、適度な気温で葉面の濡れ時間が一定以上長くなることが必要です。イネの品種によってもいもち病に対する強さが異なり、また同じ品種でも地域、イネの葉色（緑色の濃さ）によって病気のかかりやすさが異なります。いもち病は感染してから7～10日の潜伏期間の後に病斑が現れてきます。毎年のようにいもち病が発生する地域では特によく観察し、適期を逃さないように薬剤散布を行ってください。防除薬剤の選択に迷った場合は最寄りの指導機関や農業農村支援センターに相談しましょう。

なお、長野農業農村支援センター管内には、気温・雨量及び濡れ時間を測定できる「クroppナビ」が設置されており、アスザック(株) P&D 事業部のHPでいもち病の感染好適条件の発現を確認できます。また、ほ場に残した予備苗はいもち病の発生源となりますので早めに処分しましょう。



(2) カメムシ類

近年、籾を吸汁するカメムシ類が多発し、品質低下要因として斑点米が大きな問題になっています。斑点米の原因となるカメムシ類の防除には、薬剤散布のほか、発生源となるほ場周辺のイネ科雑草、畦草を刈っておくことも効果的です。また、本田内にホタルイ等の雑草が多いとカメムシの発生を助長するため、畦畔・田内共に雑草対策をしっかりと行いましょう。特に「あきたこまち」は、品種特性上割れ籾が多く、カメムシ類による吸汁被害を受けやすいので注意します。



【 斑点米の原因となる主なカメムシ類 】
アカスジカスミカメ (左)
アカヒゲホソミドリカスミカメ (右)

畦草刈りは、以下のいずれかとします。

- 出穂2週間前の7月中旬頃に行い、その後は収穫直前まで畦草刈りを行わない。
- もしくは、畦畔のイネ科雑草の穂が出ないようにこまめに草刈りを行う（3週間おき）。
- もしくは、草刈りの直前に本田へカメムシの殺虫剤を散布する。

登熟期間中の畦畔除草は、カメムシ類の田への飛び込みを誘発するので、出来るだけ控えた方が良いでしょう、やむを得ず実施する場合は除草の後、本田へカメムシ類の薬剤防除を行います。薬剤の使用にあたってはミツバチ等への危被害に注意しましょう。

【大豆】

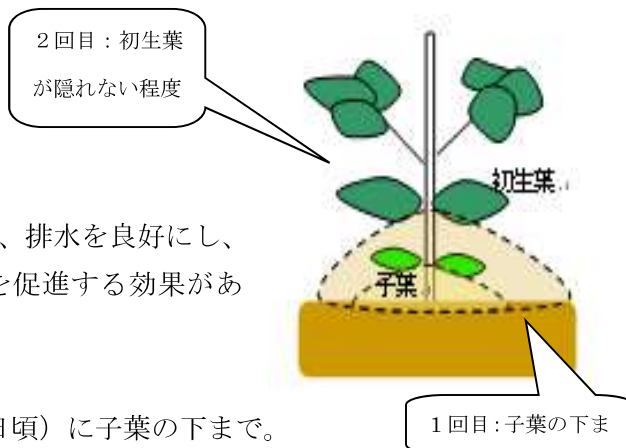
1 雑草防除

(1) 中耕・培土（土よせ）

中耕培土は雑草の発生を抑制します。また、排水を良好にし、土壌の通気性を高めて、根と根粒菌の発育を促進する効果があり、倒伏防止にも有効です。

- 1回目：本葉3～4枚時（播種後20～25日頃）に子葉の下まで。
- 2回目：本葉5～6枚時（播種後30～35日頃）に初生葉の下まで。

晩播で狭畦（畦幅30～50cm）の場合は原則、中耕・培土は不要です。



(2) 除草剤の茎葉処理による防除

大豆は、地表面の被覆度が大きいいため雑草の抑制能力は高いですが、中には大型草種、帰化雑草が見られるほ場もあります。ヒユ類、オオブタクサなどの収穫作業の支障・汚粒による品質低下につながる草種については、特に初期防除が重要となります。発生している草種を確認し、効果の高い薬剤を適期に散布します。広葉雑草の多いほ場では、生育期茎葉処理剤を使用します。

果 樹

〇りんご

1 見直し摘果

仕上げ摘果をひととおり実施した後、見直し摘果を行います。7月中旬頃から来年の花芽分化が始まるので、仕上げ摘果の目安は満開後 60 日以内となります。さび果や肥大不良果、変形果、子花果や「シナノゴールド」に多い遅れ花果なども摘果し、樹勢に見合った適正な着果量にします。



(りんごの果台)

また、果台が長い（2 cm以上）と収穫期に熟さない果実（青み果）となりやすいので、果台の長さをよく確認して下さい。



(左：青み果 右：正常果)

「シナノゴールド」は節間長が短いため、着果量が多めに見えます。着果量が少なくなりすぎると肥大がよくなり、ビターピットが発生しやすくなりますので注意しましょう。逆に、着果過多にすると着色・成熟が遅れ、糖度も低くなりますので注意しましょう。

なお、日焼けした果実は、除去すると果実の重みが無くなるため枝が持ち上がり、それまで陰になっていた果実に直射日光が当たるようになり日焼けを誘発することがあります。

2 新梢管理と支柱立て

徒長枝は樹冠内部への日光の透過や薬剤の到達を妨げる一方で、日焼け防止や養水分を引っばる働きもしてくれます。普通樹では、日焼け防止も兼ね5～6月に主枝を中心に30～40 cm間隔で残します。なお、日焼け防止を行う枝葉が無い部位は、白塗剤、わら、段ボール等で日焼けを防ぎます。

支柱立ては梅雨明け前に見直しをします。梅雨明け後に見直す場合は果実の日焼けに注意します。

3 シンクイムシ類、ハダニ類に注意

シンクイムシ類は気温が高い場合には、防除間隔が空きすぎないように注意が必要です。また梅雨明け後、高温乾燥になるとナミハダニが増加してきます。殺ダニ剤の散布に当たっては、事前に枝吊りや徒長枝切り、草刈りを行い、散布ムラがないように防除しましょう。

〇ぶどう

1 無核栽培の新梢管理

短梢栽培では新梢の伸長が旺盛で、副梢が発生しやすいため、棚面が一気に暗くなってしまいます。新梢が交差しないよう、巻きヅルを除去しながら棚付けしましょう。先端の副梢はそのまま真っ直ぐに誘引し、その他の副梢は1～2枚残して摘心します。孫枝が発生したら基部から切除します(図1)。

新梢管理を怠ると、無核栽培では果粒の肥大不足や着色不良等、品質低下を招きます。ナガノパープルでは裂果を助長する場合もあるので、新梢管理は適期に、きちんと行ってください。

摘心の時期は品種によって多少異なりますが、いずれの品種も、果粒軟化期直前に強い摘心をしてしまうと縮果症が発生するので、注意して下さい。(表1参照)

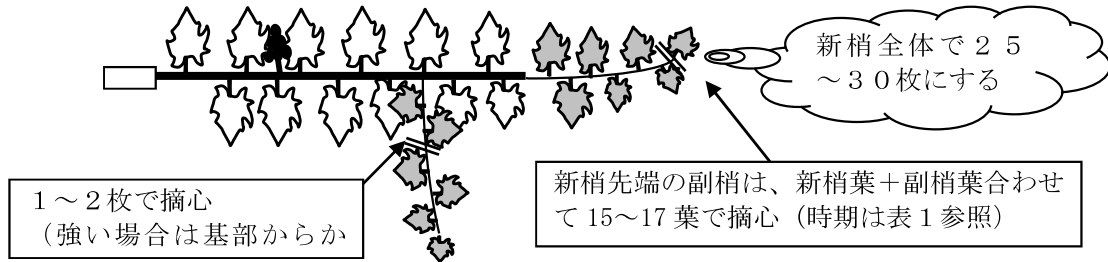


図1 新梢管理の方法(基本)

表1 先端副梢の摘心方法(短梢栽培)

品 種	処 理 方 法
ピオーネ	満開 35～40 日後頃(7月下旬頃の果粒軟化期前)に主枝間の中央部で一律摘心
ナガノパープル	満開 20～35 日後頃に新梢葉と先端副梢葉をあわせて 15～17 枚を目安に摘心
シャインマスカット	7月中旬の果粒軟化期前(満開 30 日頃)までに新梢葉と先端副梢葉をあわせて 15～17 前を目安に摘心(果粒軟化直前の強い摘心は縮果症の発生を助長)
クイーんルージュ®	満開 30 日後頃までに新梢葉と先端副梢葉あわせて 15～17 枚を目安に摘心

2 着果量

全ての新梢に着房させると、着果過多となり着色が劣るだけでなく、食味も悪くなります。適正着果量は、房重にもよりますが、4新梢に3房～3新梢に2房です。短い新梢に着房している房や房型が悪い房を優先的に摘房します。

3 袋掛け・笠かけ

仕上げ摘粒が終わり次第、できるだけ早く袋をかけましょう。特に、昨年晩腐病が発生した園地では、発生が多かった場所から早めに袋かけを行います。

梅雨が明ける前に袋掛けが終われば問題ありませんが、梅雨明け直後に袋掛けを行うと果実の日焼けを助長します。日焼けが心配な場合は、果粒軟化期以降に袋を掛け、房の肩が袋に触れない程度の空間をあけてください。

袋掛けにあわせて笠かけも行いましょう。



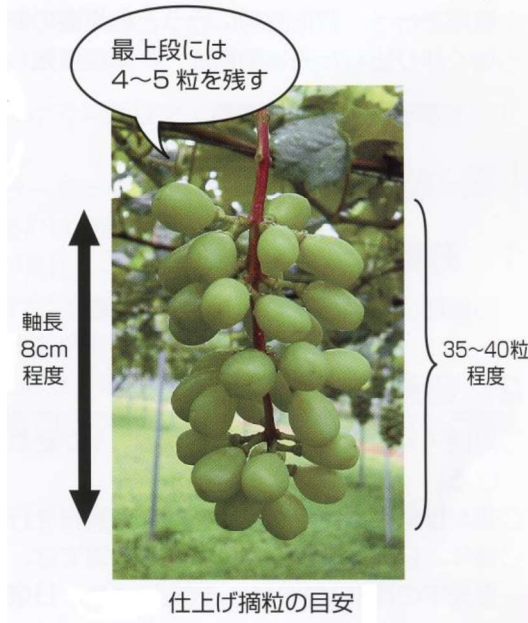
○シャインマスカットの摘粒

大房傾向のほ場が見られます。適房生産に努めて下さい。

【シャインマスカットの軸長と粒数の基準】

軸長 7～8 cm程度

粒数 35～40粒



○もも

1 収穫前管理

川中島地区の「川中島白桃」の満開は4月15日で昨年よりも5日早い。肥大は良く、着果はおおむね確保されています。

もも、ネクタリンの収穫が始まります。収穫前管理のポイントは次のとおりです。

(1) 除袋

表を参考に果実を確認し、品種別に除袋時期を設定してください。

着色の難易	品種名	除袋時期
着色容易な品種	川中島白鳳、アームキング	収穫 4～7 日前
着色中位な品種	白鳳、川中島白桃、なつっこ、水野ネクタリン	収穫 7～10 日前
着色困難な品種	愛知白桃、白桃、志賀白桃	収穫 10～14 日前

なお、果実の状態から見た除袋時期は、次のとおりです。

- ① 果実全体の地色（緑色）が抜けて白色になる。
- ② 果実の尻部分と縫合線付近に、わずかに緑色が残ってる。

【ためし除袋】

1 樹あたり 5ヶ所程度、樹冠上部の果実の除袋をして適期を把握する。

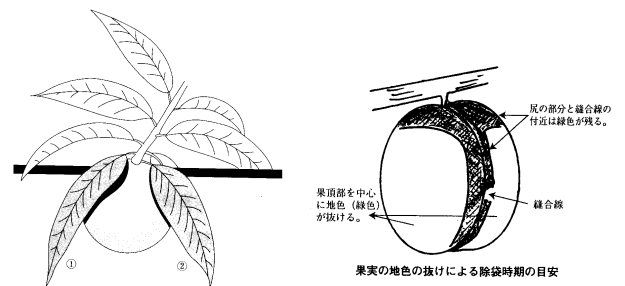


図2 摘葉
果実の周辺①②を摘みとる（農業技術大系より）

(2) 着色管理

葉摘みは、有袋栽培では除袋後、無袋栽培では着色が始まった頃から果実に密着している葉や日射を遮っている果実周辺の2～3枚の葉を摘みます。多くても5～6枚にとどめましょう。

(3) 支柱立て、枝つり

主枝、亜主枝、側枝など垂れ下がってしまう部分には支柱を立てるか枝吊りを行いましょう。

(4) 新梢管理

徒長枝等があると樹幹内部まで光が入らず、果実の着色や糖度の上昇を妨げるほか、樹形の乱れの原因にもなります。誘引、捻枝や場合によっては切除を行い、光が樹冠内部まで入るようにします。

(5) 反射フィルム

着色がひととおり進んだら、過着色や微裂果を防ぐためにも反射フィルムは除去します。特に着色しやすい品種は注意しましょう。

【反射フィルムの使用目安】

着色の難易	品種名	被覆時期	除去時期
着色しやすい	日川白鳳、あかつき、長沢白鳳など	収穫始め頃	晴天が続く場合は被覆後3～4日で着色するため除去する。過度の着色は控え鮮紅色に仕上げる。
着色中程度	白鳳など	収穫始めの4～5日前	果頂部から赤道部にかけて着色し、収穫が始まったら除去する。過度の被覆は微裂果や温度上昇による軟化を早める原因となるため注意する。
着色しにくい	八幡白鳳	収穫始めの5～7日前	
有袋栽培	裂果する品種 着色しにくい品種	除袋後	

【参考】令和6年度 長野県果樹試験場におけるもも4品種の収穫始め予測（6月10日）

品種	満開日	満開後1～50日の平均気温	満開から収穫始めまでの日数	収穫始め(予測日)	平年比(実績)	昨年比(実績)
白鳳	4月17日	17.0℃	99日	7月25日	-7	-3
あかつき	4月16日	16.9℃	100日	7月25日	-7	-1
なつっこ	4月19日	17.3℃	107日	8月4日	-6	-4
川中島白桃	4月17日	17.0℃	121日	8月16日	-9	-6

〇ニホンナシ

ニホンナシの肥大は良く、着果はおおむね確保されています。

(1) 南水の新梢管理について

- ア 盃状部の本来、芽かきをする芽でありながら徒長枝となってしまったものは、7月の内であれば徒長枝の太さを抑制することができるので誘引します。7月以降でも徒長枝は誘引して太らせないようにし、背面の極端に強いもの、混んでいる部分を間引く程度としましょう。
- イ 主枝先端部は、斜め支柱に沿って棚面か40cm程度上げて固定します。
- ウ 凍霜害により着果が極端に少ない樹では、短果枝から新梢が旺盛に伸びることを防ぐため、骨格枝の先端部や極端に着果の少ない側枝の先端部は枝の誘引ひもをはずして枝を立ち上げる。また新梢発生が旺盛となるので側枝の更新のため、伸長が停止した新梢を斜めに誘引し、側枝更新に向けた準備を行う。

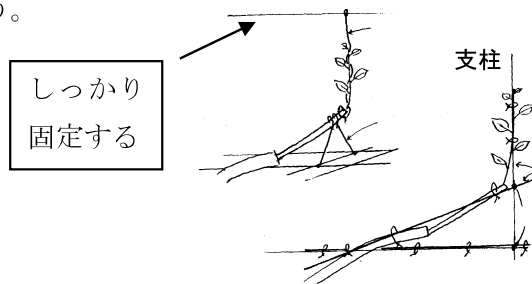


図3 主枝先端は風で振れないように、支柱等で固定する

野菜

1 露地果菜類の病害虫防除

今年の梅雨入りは、6月21日となり例年に比べ14日遅く、昨年と比べたら13日遅れています。梅雨明けまでは、多湿、日照不足などにより特に、「病害」が発生しやすい時期ですので、定期的な観察による早期発見、予防散布を心がけましょう。

- (1) 草勢の低下と併せて発病が目立ってきますので、適正な追肥により草勢維持を図りましょう。
- (2) 風通しや葉の受光態勢を確保するために整枝や摘葉を行いましょ。特に収穫果実のある位置より下の横枝、腋芽は早めに除去しましょ。
- (3) 強い雨による土の跳ね上がりは病害発生の原因となるため、敷きわら等を行いましょ
- (4) 薬剤防除は、降雨の前に散布しましょ。散布後薬液が乾かない状態で降雨があつた場合は効果が低下しますが、散布2～3時間後に降雨があつた場合は十分効果が期待できます。
(降雨後の薬剤散布では、降雨の量によっては散布のためにほ場に入ることができず、結果として適期に防除ができなくなってしまうことがあります。)

また、高温・干ばつ(乾燥)条件が続くと、「害虫」の発生が増加します。観察による早期発見、発生確認後は発生密度が低いうちに防除を行いましょ。

○オオタバコガ：成虫発生後の卵～幼虫の時期が防除時期となります。

(平坦部の雄成虫の平年の発生ピークは7月下旬、8月下旬、9月下旬頃)

○アザミウマ類、アブラムシ類、ハダニ類：

虫体が小さく、高温乾燥条件では成長が早く、多発すると防除が困難となります。花の中、葉裏の観察により早期発見により防除時期を逸しないように注意します。アザミウマ類は青色の粘着板、アブラムシ類は黄色の粘着板に誘引されます。

2 アスパラガスの管理

(1) 茎枯病防除

茎枯病の初発期となり、露地ほ場でのまん延が懸念されます。罹病茎(写真1)を発見したら、切り取ってほ場外に持ち出し、埋設又は焼却処分してください。感染拡大を阻止するには、感染源を断ち切ることが重要です。罹病茎や前年の残茎等の感染源はほ場内にはおかないことを徹底しましょ。

立茎期の畝上への盛り土や有機物マルチによる被覆、簡易雨よけの設置は茎枯病の発病抑制効果があります。薬剤防除だけでなく、必ずこれらの耕種的防除と組み合わせて行いましょ。



写真1 アスパラガス茎枯病

(2) 倒伏防止対策(支柱・フラワーネット)

立茎後の茎葉が風にあおられると株元が傷み、光合成と養分の蓄積が阻害されます。支柱やフラワーネット、テープ等を用いて養成茎を安定させましょ。ネット等は、養成茎の伸長に合わせて高さ60cm程度と100～120cmの2段で張るとよいでしょう。

(3) 立茎数の管理

養成茎の立茎後でも周辺部から新たな若茎が萌芽してきます。これらを放置しておくと、茎葉が混み合い、薬剤散布が届かず、病害虫が発生を助長します。春どりのみの作型でも定期的に茎数の整理を行いましょ。立茎数は株あたり5～6本程度を基準とします。原則として一度立茎した養成茎は、そのまま晩秋まで健全に保つように努めます。しかし、病害虫等により養成茎が黄化・枯死した茎は株元から切除し、新しく萌芽した養成茎に更新しましょ（なお、更新可能時期は7月末までが目安）。

(4) 長期どり・二季どり（春・夏秋どり）に向けての下枝整理

立茎をはじめて1ヶ月ぐらいから夏秋芽の萌芽が始まるので、地際から高さ60cm付近までの下枝整理も行いましょ。長期どりなどでは、若茎の着色・品質の向上のため、不要な茎や下枝整理、茎枯病の罹病茎の除去を、できれば晴天日を選んで行いましょ。

(5) 梅雨明け後の水管理（かん水）

土壌が乾燥する場合は、10～14日間隔で20mm程度のかん水をします。排水不良園では1回のかん水量を少なくし、かん水回数を増やしてください。

3 スイートコーンの管理

主要害虫であるアワノメイガは葉裏に卵をかたまて産卵し、ふ化した幼虫は葉脈、葉の付け根から茎内に侵入、雄穂や雌穂を食害します。発生の有無は、葉のつけ根や稈から虫糞が出ていないか、雄穂が食害により折れていないか等で確認してください。薬剤防除は雄穂や葉のつけ根にしっかりかかるように行ってください。

また、品種により主茎の下位節位から数本の分げつ茎が発生することがあり、この分げつ茎は主茎に栄養を転流している他、倒伏防止にもつながります。分げつ茎除去の有無の試験（表1）では、除去しない方が穂重は重く、先端不稔が少ない結果となっています。作業のじゃまにならない範囲でそのまま残しますが、分げつ茎を除去する場合は、刃物などで上部を切除し、節の部分を残すようにします。

表1 除げつ、除房処理が収量、品質に与える影響(中信農試 平成10年を一部改変)

品 種	処 理	苞付き			先端不稔長	粒列のそろい*	Brix
		穂重	長	径			
ピーター610	除げつ	355	24.4	5.9	3.3	1.3	18.0
	除房	376	25.9	6.0	2.1	1.1	17.2
	除げつ+除房	347	25.7	5.5	3.5	1.0	18.2
	無処理	396	25.5	6.2	1.4	1.1	17.5

注)4月23日は種の露地マルチ栽培

*:1(良)~3(不良)

4 夏秋キュウリの草勢管理

葉の養分を蓄積する力（光合成能力）は、展葉後10日頃から増加して35日頃にピークとなり、その後は急激に減少します。下位の老化葉の摘葉は主枝の葉が20枚以上展葉頃から始めましょ。なお、摘葉は1回に株あたり葉2～3枚程度を目安とし、過度の摘葉は草勢低下につながるので控えましょ。1日の光合成の60～70%を午前中に行うため、葉に光が十分に当たるように整枝を行い、かん水や追肥によって草勢維持を行います。また、根は土中の浅い部分に繁茂するため、乾燥には弱く、真夏時には1株あたり・1日に2ℓ以上の水を消費するため、少量でこまめなかん水が重要です。かん水は早朝又は夕方に行い、畝間かん水では畝上に水がつくような多量のかん水は禁物です。追肥は草勢を見ながら、窒素・カリとも1回あたり成分で0.1～0.2kg/a程度とし、5～10日間隔で行います。

花き

平年の梅雨明けは7月19日頃となります。梅雨明け後は強烈な日差しと気温の上昇となり、花にとっても施設内で仕事をする人にとっても過酷な環境となります。天窗や棲窓、肩部分を開けて施設内の熱気を抜くなど換気の徹底を図ってください。

また、施設内への風通しを妨げるようなものがないか点検するなど、周辺環境改善をしておきましょう。

1 トルコギキョウ抑制作型（9～10月切り花）

（1）ほ場準備

この作型は定植から収穫までの期間が短く、品種によっては3カ月程度で出荷されるため、早期から肥料が十分吸収できる状態にすることが、ボリューム確保や品質向上を図る上で重要となります。

トルコギキョウは、かん水を多く必要とする品目であり、特に夏場は通常よりかん水が多くなるため、過剰な水分が滞水しない、物理性のよい土づくりが重要となります。物理性の改善として、深耕による作土層の確保と良質な有機物施用が基本となります。

堆肥や基肥施用し耕うん後、畝立てを行い、定植までに地温を下げる目的で遮光し、適宜散水を行います。

（2）生育初期の管理

ア かん水管理

7月上旬～8月上旬の定植は高温、強日射の影響により、定植直後から活着までは水分ストレスを受けやすい時期です。水分管理には細心の注意を払い、施設内の気温の上昇と直射日光による苗からの蒸散を防ぐことで活着の促進が図られます。

イ 短日処理

短日処理の方法は、定植直後から9時間日長となるよう100%遮光の資材を用いて実施します。短日処理の期間は、定植時期や品種の早晩性等によって異なりますが、7月定植では2～4週間程度とします。8月以降の短日処理は開花が遅れるため、地域によって



写真1 トルコギキョウ短日処理の様子

は短日処理を行わないか、実施しても2週間程度の処理期間とします。

ウ 高温対策

7月の梅雨明け以降は、高温、強日射となり、葉先枯れや生育促進による短茎開花等の品質低下が問題となります。7月から8月の定植は、高温の影響を受けるため定植前から施設内の温度や地温を下げる対策が必要です。

寒冷紗等で施設内の遮光や天窗、側窓、妻面を開放しできるだけ外気温に近づけます。遮光率は40%程度がよく、50%以上の遮光率の高い遮光を長期間被覆した場合、茎の軟弱化や花蕾数、分枝数の減少などの品質低下につながるので注意します。



写真2 内張りカーテンによる葉焼け対策

2 ストック無加温秋切り作型（10月～12月）

7月下旬から8月上旬には種し、無加温で10月～12月にかけて切り花する作型です。高温期の育苗と定植となるので、きめ細かな管理が必要となります。は種期が早すぎると早期開花による草丈不足や分枝の発生、花飛びなどが発生しやすくなります。また、遅すぎると年内に開花しないものが出たり、低温によって採花率が低下します。

直まき栽培の場合は、開花期が前進するため、移植栽培よりもは種期を1週間程度遅らせては種します。

(1) 移植栽培のは種

a 当たりの定植数は4,400本となります。発芽率、生育不良、八重鑑別を考慮すると定植株数の2.5～3倍の種子が必要です。10mlの種子数は2,000～2,500粒であるため、50～60mlが必要です。は種は、深めの育苗箱を用いて、1箱当たり2ml（約400～500粒）を条播します。条間5～6cm、深さ5mm程度のまき溝をつけは種間隔は5mm程度になるように均一には種します。は種後は種子が見えない程度に覆土します。は種前に用土を十分に吸水させておき、細目のノズルでたっぷりかん水後、発芽までは新聞紙をかけます。

(2) 発芽後の管理

発芽後は、直ちに新聞紙を外し、徒長を防ぎます。八重咲き率を高めるには、かん水を均一にして発芽を斉一に揃えることがポイントです。発芽揃いまでは土壌表面を乾燥させないように遮光資材を用いて管理します。かん水は本葉1枚頃までは、多めにし、徐々にかん水量を控えていきます。

(3) 八重鑑別

八重鑑別は、発芽揃期、子葉展開期、定植前の3回に分けて行い、特に子葉展開期を重点に行います。

- ① 発芽揃期は、遅く発芽したものと奇形葉を間引く。
- ② 子葉展開期は、子葉が小さく、丸い、葉色が濃い個体を間引く。
- ③ 定植前は、子葉が短く子葉の幅が狭いものを間引く

【飼料作物】

◎牧草の刈り取りと保管

永年性牧草一番草の収穫作業がほぼ完了する頃です。ロールベールラッピングで保管の場合、ラップの収縮は1か月程度で硬化し型崩れしにくくなりますが、柔軟性が低くなっていくことから、移動させる際は表面が破れやすくなっているため取り扱いには十分注意してください。

また、保管の際は鳥獣による悪戯も考慮されるので、必要に応じてテグス（糸）を張り鳥害対策をしたり、ネズミ対策として猫の通れる程度の間隔でロールを並べるなどの対策が考えられます。

◎飼料トウモロコシの管理

5月の播種作業後の除草剤については、播種直後の散布による雑草種子発芽抑制タイプと雑草生育中に薬剤成分の吸収により生育阻害させるタイプがあります。処理する際は対象雑草の適用葉齢がありますので、対象農薬の説明書を確認してから散布してください。

【酪農】 福島県 1000kgUP 酪農より

◎乾乳前期はルーメンや乳腺細胞のリフレッシュ期間、乾乳後期は泌乳開始に向けた助走期間

乾乳期間が短いと、乾乳前の泌乳期間中に、濃厚飼料の多給で酷使したルーメンや乳腺細胞の十分な休息や再生ができず、次の乳期の乳生産に影響します。乾乳期間が長いと過肥になりやすく、分娩前後に脂肪肝やケトosisが発生しやすくなります。乾乳期間は60日前後が多いです。

乾乳直後～分娩3週間前（乾乳前期）は粗飼料主体の給与を行いルーメンや乳腺細胞を休息（リフレッシュ）させます。

分娩3週間前～分娩まで（乾乳後期）はクローズ・アップ期と呼ばれ、十分な栄養分を給与する必要があります。給与飼料に対して、ルーメン内の微生物が適応するためには少なくとも3週間が必要です。また、ルーメンが分娩後の高栄養飼料を十分に消化・吸収できるようになるには5週間程度かかるため、分娩直前の3週間はできるだけ分娩後の泌乳期用の飼料構成に近づけるようにします。

◎周産期の乾物摂取量

分娩が近づくにつれて乾物摂取量は減少し、分娩前1～2週間にはそれまでの乾物摂取量の90～70%に減少します。分娩直前の乾物摂取量が多ければ多いほど、分娩直後の乾物摂取量は多くなり、分娩前の採食量が少ないほど、分娩後に脂肪肝やケトosisの発生が増加します。分娩直前の3週間でエネルギー及び粗タンパク質の給与量を増やすことにより、代謝病の発生を少なくすることができます。

◎分娩直前3週間の粗濃比は7：3

粗濃比9：1の粗濃比では、分娩直前の乳牛はエサの乾物すべてを食い込めず、分娩前の3週目頃から、TDN摂取量も急速に減少します。一方、粗濃比5：5のエサでは、同様のエネルギーを充足できる乾物量は約10kgで、この程度であれば分娩直前でも食べ残さず、分娩直前になってもTDN摂取量は減少しません。そこで、分娩前3週目以前のTDN含量は56～57%、分娩前2週目は60%程度、分娩直前の1週間は63%程度。給与飼料のTDN含量が56～57%であれば

粗濃比は9:1で十分ですが、60~63%ならば7:3~6:4にまで粗濃比を変える必要があります。

◎乾物摂取量が乳量を追いかける

分娩直後から泌乳ピークまでの間は、乳牛のエネルギーバランスがマイナスとなり、乳牛の体重は減少し続けます。給与飼料の栄養要求量を満たせなかったり採食量が十分でないと、高泌乳牛ほど体重の減少は大きく、泌乳能力を十分に発揮できないばかりか繁殖障害が多発します。

◎P/F比は0.8以上が目標

泌乳初期では乳脂肪率が高くなりやすく、乳タンパク質率は低下する傾向です。乳タンパク質の原料となるアミノ酸は、主としてルーメン内の微生物タンパク質から供給されています。微生物タンパク質は、乳牛が採食したエネルギーが多くなれば増加し、不足すると低下する。このことから、泌乳初期においての乳タンパク質率(P)と乳脂肪率(F)との関係(P/F比)は、エネルギー充足の状態を知るための目安となります。

【繁殖和牛】二産後以降の繁殖牛（経産牛）の管理 肉用繁殖牛飼養管理の手引きより

二産時には早い牛でも35カ月齢頃に、発育量は0.1kg/日以内となります。自身の発育に要する飼料は考慮する必要がなくなり、維持期で日量へイキューブ1kg、やや刈り遅れのイネ科乾草又は稲ワラ6kg、濃厚飼料1kgをベースに、授乳期は濃厚飼料を2kg増量、分娩前2カ月は濃厚飼料1kg増量します。経産牛は、加齢により基礎代謝量が減少するため太り易くなります。牛の栄養状態（ボディコンディション）を見ながら飼料の減量等が必要となります。なお、ボディコンディションの調整は、受胎を確認し安定期に入ってから妊娠後期に入る前まで（分娩予定6カ月前～3カ月前）の期間に実施します。また、妊娠後期の飼料減量は虚弱産子や分娩遅延につながり易く、分娩後の飼料減量も産乳量の減少や子宮回復遅延・卵巣機能低下を引き起こし易いので、くれぐれも注意が必要です。

◎授乳期・へイキューブ1kg・イネ科乾草又はストロー類6kg・繁殖配合3kg

◎維持期（離乳～分娩2カ月前まで）・へイキューブ1kg・イネ科乾草又は稲ワラ6kg・繁殖配合1kg
○発情観察を入念に行う。○離乳後は授乳負担が少なくなるため、卵胞膿種が発生し易い。（分娩6カ月前～3カ月前）○栄養管理の徹底によって疾病の防止を図る。（ボディコンディション）

◎妊娠後期（分娩2カ月前～）・へイキューブ1kg・イネ科乾草又はストロー類6kg・繁殖配合2kg
○胎児の発育のため濃厚飼料を増量する。（濃厚飼料の増給は日量0.5kgを限度に2回に分けて増給する。）（参考）分娩1カ月前～夕方に飼料全量を1回で給与すると、ほとんど日中に分娩する。

きのこ

1 夏季の栽培環境維持と節電の対策

栽培施設内と屋外の温度等の環境条件が最も異なる季節になります。安定生産のために施設内の栽培環境を維持するとともに、少しでも消費電力を抑えて経費を抑制しましょう。

(1) 栽培室内の空気循環(風通し)の確保

- **生育室** 棚の両サイドやコンテナと壁際の間隔を 10~20cm 程度確保する
- **培養室** 積み上げたコンテナやパレット間、壁際との間隔を 15~30cm 程度確保する
- 補助ファンやクーラーを空回しして空気循環を行う

(2) 外気流入による施設内の急激な温度変化の防止

- **ドアや窓** 開閉回数と開閉時間の削減(外気の流入防止)
- **出入口** (外気流入の防止、栽培室内から冷気の拡散防止のために)カーテンを設置

(3) 直射日光の遮断

- **外壁や窓** 「よしず」や寒冷紗等日よけの設置
- **窓(室内側)** レースのカーテンやブラインド等の設置

(4) 空調関係機器の性能低下の抑制

- **室外機** 「よしず」等による日よけの設置、設置周辺部の風通しの確保、打ち水
- **ラジエーターやフィルター等** ゴミや埃(ホコリ)の定期的な除去・洗浄を実施

(5) その他(施設改善)

- 照明器具をLED等の省エネタイプへの交換
- 屋根への断熱塗料の塗布、屋根裏への断熱材の設置
- 散水システムの設置(地下水が利用できる場合)

2 異物混入防止のための計画的な清掃と作業方法の見直し

混入リスクを減らすために、清掃の頻度や方法を工夫して、計画的、定時、定期的に清掃を行いましょう。また、作業動線を意識した物の配置や物が動かしやすくする等を改善して、作業時間を削減しましょう。床が湿っている場合が多く、転倒による事故も発生しています。作業上のリスクも考慮しながら効率向上を目指しましょう。

(1) 定時・定期清掃の目安

- 始業時(毎日) 更衣場所
- 休憩後(毎日) 休憩場所
- 作業終了後(毎日) 床、通路、手洗い場、トイレなど
- 週1回程度 不要品・廃棄物の整理・処分など
- 月1回程度 普段の清掃で手の届きにくいところなど

(2) 作業方法の見直し例

- 栽培コンテナ、収穫コンテナ、包装用資材、出荷用ダンボール等の台車、移動可能なパレットなどを利用して、直置きせずに床から離して管理する。
- 器具、工具など:使用場所や頻度ごとに分類して、収納場所を決めるとともに、作業員全員がわかるように収納位置等を掲示し、整理整頓を行う。

果樹栽培管理講習会を開催しました

5月28日、共和園芸農業協同組合を会場に、技術指導者を対象とした果樹栽培管理講習会を開催しました。この講習会は、JAや普及指導員等、若い技術者の基本技術習得を目的としており、ベテラン技術者が講師となって①果樹定植前のほ場選定と土壌改良対策、②スピードスプレーヤー操作研修、③りんごの腐らん病削り研修の3つの内容について行いました。

当日は、悪天候により現場での作業が行えませんでした。座学をメインとして、基本事項の確認、農家指導方法の習得等、学びの多い講習会になりました。

講習会の中では、定植前のほ場選定と土壌改良対策について、土壌の排水性の判断方法等の質問が多くありました。

(地域第一係 小林)



果樹定植前のほ場選定と土壌改良対策



スピードスプレーヤー操作研修

地域のできごと

R6.7

大岡ふるさと協議会設立総会が開催されました

5月28日、長野市大岡支所にて「大岡ふるさと協議会」の設立総会が開催されました。大岡地区は長野市最南部にある中山間地で、きれいな湧き水を利用した稲作栽培が盛んな地域ですが、農業従事者が高齢となり、担い手不足となっていました。こうした中で、大岡地区在住の有志が農用地保全活動等を行ない、地域を維持していくことを目的に、一年近くの計画策定を行った後、「大岡ふるさと協議会」を立ち上げました。

設立総会には地区住民18名が出席し、発起人から趣旨説明がありました。続く議事では、協議会の規約および役員、事業計画及び予算の説明があり、全て承認されました。協議会役員からは「大岡地区が好きだからこそ、もっと外部地域の方に魅力を知ってもらいたい。」と力強い発言がありました。この取組みは、国の農村型地域運営組織（農村RMO）形成推進事業を活用しており、農業農村支援センターはオブザーバーとして計画策定の段階から助言や伴走支援を行っています。協議会の設立後も、住民を主体とした地域の活動をフォローしていきながら、地区の活性化を支援していきます。

（地域第一係 後藤田）



大岡ふるさと協議会の概要説明を行う発起人（中央）と
熱心に話を聞く、住民・役員の様子

ツキノワグマ



●ツキノワグマの生態

『生息域』… 本州、四国に生息。九州では絶滅しました。

『行動圏』… 単独で行動します。「なわばり」がないので、複数のクマの行動する範囲が餌場などで重なり合います。30～110km²の範囲で移動します。

『からだ』… 体重は40～130kg。体が柔らかく、30cm四方の穴をくぐりぬけます。
嗅覚・聴覚がするどく人間が気付く前にクマの方で察知します。

『食べ物』… 雑食性だが植物質が主。冬眠前は山林内のドングリ等を食べ脂肪をつけます。
のため、キャンプ場のゴミや農地の廃果等にも居付きやすく、人里周辺に居座りつづける原因になります。

『生活』… 昼夜を問わず、活動と休息を繰り返します。本来、とても臆病なので、人里近くでは早朝と夜間に出没します。

クマの被害を最小限にする鉄則3

鉄則1 「クマを誘うような物は片付ける」

取残しの果樹の実や生ゴミ等は放置せず、指定の場所に持ち込んだり、深く埋めるなど処理しましょう。山に入った時も、お弁当やお菓子等のゴミを捨てると、人間の食べ物の味を覚えてしまうので、かならず持ち帰ること！



▲被害作物も片付けましょう！

鉄則2 「音をたてながら、複数で行動」

とても臆病ですが、ばったり出会ったりした場合には、事故が発生することがあります。山に入るときや山際を早朝や夜間出歩くときは、ラジオや鈴を鳴らしながら、複数で行動するなど、「人間の存在をアピール」しましょう。



電池でも車の
バッテリーでもOK！

鉄則3 「農地に入らせない近づけない対策を」

今は性能のよい、効果のある電気柵が多数あります。地域で電気柵を購入し収穫まぎわだけでも、設置するなど、皆でクマの被害を防ぎましょう。

人間に依存させないことが大切です。

電気柵 →

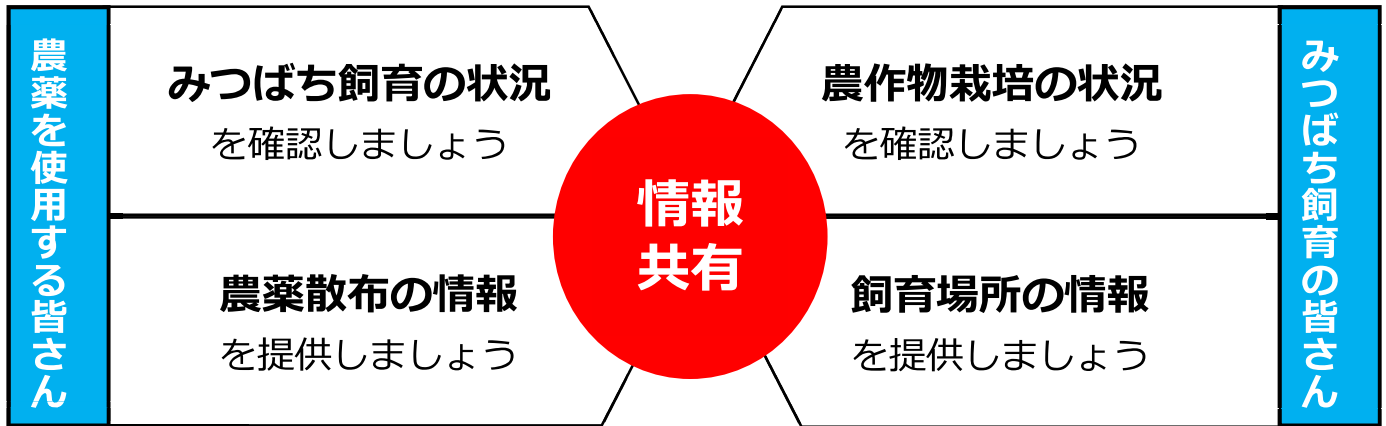
- ① 手前に複線を張ると、地面を掘ってくぐる事が出来ません。
- ② クマが鼻先で探った瞬間、敏感な鼻に電気がビリッと伝わるのでとても効果的です。
- ③ 設置が容易です。



副線(奥行き)で！



みつばちへの危被害を防ぎましょう



農薬を使用する皆さんへ



■ みつばちは農薬に極めて敏感です ■

- ★ 巣箱や周辺への農薬の飛散に注意しましょう。
 - ☞ みつばちの活動する時（気温が概ね 13~30℃となる時間）の散布は特に注意しましょう
 - ☞ 風向きに注意し、早朝など風の無い時間帯に散布しましょう
 - ☞ ノズルの向きに注意して散布しましょう
 - ☞ ほ場の外側から内側に向かって散布しましょう
 - ☞ みつばちに影響があるとされる農薬もあるので、農薬選択の際は注意しましょう
 - ☞ できるだけ飛散の少ない剤型を選びましょう
- ★ 夏季の水稲カメムシ防除の時期には特に注意しましょう。
 - ☞ 広域で一斉に農薬を散布する場合は特に注意が必要です
- ★ 農薬の使用上の注意をよく読みましょう。



● ● ● 農薬の適正使用を心がけましょう ● ● ●

詳しいお問い合わせ先は・・・

■ 農薬、防除に関すること ■

長野農業農村支援センター 技術経営普及課

電話 026-234-9536

■ みつばち飼育に関すること ■

長野農業農村支援センター 農業農村振興課

電話 026-234-9514

あなたも環境にやさしい農業に取り組んでみませんか

環境にやさしい農業認定制度

長野県



信州の環境にやさしい農産物認証

化学肥料及び化学合成農薬について、「地域慣行施肥量」及び「地区化学農薬使用回数」の50%以上を削減した方法で生産された農産物

環境負荷低減事業活動実施計画の認定（みどり認定）（※エコファーマーに代わる認定制度）

土づくりと一体的に行う、化学肥料および化学合成農薬低減の取組み ほか

有機 J A S



- 1 化学的に合成された肥料及び農薬を使用しない
- 2 遺伝子組換え技術を利用しない
- 3 農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減する
農業生産の方法を用いて行われる農業



環境負荷低減事業活動実施計画の認定（みどり認定）を受け、エコファーマーマークを使って農産物を販売しませんか



■エコファーマーマークは実施計画に基づいて生産した農産物の包装容器、チラシや名刺、ホームページ等に表示することができます。

従来のエコファーマーと同じ取組み（土づくりと一体的に行う化学肥料および化学合成農薬低減）で認定を受け、エコファーマーマーク使用届を提出いただきます



新法の施行に伴い、エコファーマーの認定制度が代わりました

■ **エコファーマー根拠法令**
 持続性の高い農業生産方式の導入に関する法律
 (持続農業法) <廃止>



■ **環境負荷低減事業活動認定の根拠法令**
 環境と調和のとれた食料システムの確立のための
 環境負荷低減事業活動の促進等に関する法律
 (みどりの食料システム法) <新法>

— 環境負荷低減事業活動認定について、エコファーマーとの違い —

	エコファーマー (持続農業法)	環境負荷低減事業活動認定 (みどりの食料システム法)
<p>認定を受けるために必要な取組内容</p> <p>-認定される取組について、地球温暖化防止に係る取組等が増えます-</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・土づくりと一体的に行う、化学肥料および化学合成農薬低減の取組 	<p>※以下のいずれかの取組で認定可能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土づくりと一体的に行う、化学肥料および化学合成農薬低減の取組 ・温室効果ガス削減の取組 ・土壌を使用しない栽培における化学肥料および化学合成農薬低減の取組 ・畜産由来の窒素、リンその他の環境負荷原因物質の量の減少の取組 ・土壌への炭素貯留の取組 ・生分解性プラスチックの使用またはプラスチックの排出抑制の取組 ・生物多様性保全の取組
<p>融資や税制の特例措置</p> <p>-特例内容が拡充されます-</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業改良資金の償還期間の延長 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業改良資金の償還期間の延長 ・環境にやさしい効果のある対象設備(機械)の導入の際、特別償却が可能※ <p style="text-align: right;"><small>※令和8年3月末まで</small></p>
<p>認定期間満了時の継続・再認定の方法</p> <p>-継続取組も認定可能です-</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の取組に加え、新たな技術の導入で認定可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・現行の取組継続による認定が可能(新たな技術の導入が必須ではなくなりました)

— 申請手続き —



★申請にあたり準備していただく書類

- ・認定申請書
(住所や氏名等、申請される方の基本情報の書類)【様式第3号】
- ・計画書
(環境負荷低減活動実施計画、どんな活動をするのかの書類)【様式第1号、2号】
- ・添付書類
(土づくりと一体的に行う、化学肥料および化学合成農薬低減の取組内容で申請を行う際は、土壌診断結果が必要です)

※税制特例措置希望の方

対象機械を以下より確認いただき、計画書に型式を記入ください。



https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/midorihou_kibann.html

環境負荷低減事業活動認定
 長野県ホームページ



問合わせ先 長野農業農村支援センター TEL: 026-234-9514

農業農村振興課

2E-Mail: nagano-nosei@pref.nagano.lg.jp

信州の環境にやさしい農業定着・拡大 支援事業 申請者募集中！

（長野県有機農業推進プラットフォーム先進活動支援）

長野県では、有機農業の拡大や発展に向けた取組に必要な経費を支援しています。
有機農業を盛り上げるため、地域で活動されているみなさま、ぜひご活用ください！

【申請受付期間】令和6年4月24日（水）～12月20日（金）

※本年度予算の上限に達し次第、受付終了

【申請対象者】

長野県有機農業推進プラットフォームの会員が
半数以上で構成される3名以上の任意団体

支援金額

定額5万円

（※一部8万円）

「有機農業推進プラットフォーム」って？

有機農業に関心のある生産者、消費者、流通業者等の交流・学習の場として、長野県が開設した“ゆるやかな会議体”です。

生産者、消費者等、立場や所属を問わず、長野県の有機農業や有機農産物に関心がある方は、どなたでもお気軽・簡単にご参加いただけます！

どんな取組みに使えるの？

- ・有機農業、自然農法での栽培技術講習会
- ・有機農業に先進的に取組む農業者や地域の視察
- ・有機農業や有機給食をテーマとした勉強会、啓発映画上映会
- ・保育園や小中学校での有機給食の試行（※支援金額8万円）
- ・地元有機農家紹介リーフレットの作成 …など

☆有機農業を盛り上げるための様々な取組みを対象としています！

「こんなことにも使えますか？」という取組みがありましたら、随時御相談ください。



←応募方法、有機農業推進プラットフォームへの加入方法は、長野県HPをCheck!

※アクセス解析のためにCookieを使用しています。

アクセス解析は匿名で収集されており、個人を特定するものではありません。この機能はCookieを無効にすることで収集を拒否することができますので、お使いのデバイスのブラウザの設定をご確認ください。

◎申請にあたっては、お近くの農業農村支援センターまでご相談ください！

＜お問い合わせ先＞

○佐久農業農村支援センター	TEL : 0267-63-3147	○上田農業農村支援センター	TEL : 0268-25-7126
○諏訪農業農村支援センター	TEL : 0266-57-2913	○上伊那農業農村支援センター	TEL : 0265-76-6813
○南信州農業農村支援センター	TEL : 0265-53-0413	○木曾農業農村支援センター	TEL : 0264-25-2220
○松本農業農村支援センター	TEL : 0263-40-1916	○北アルプス農業農村支援センター	TEL : 0261-23-6511
○長野農業農村支援センター	TEL : 026-234-9514	○北信農業農村支援センター	TEL : 0269-23-0209

信州の環境にやさしい農業定着・拡大 支援事業 申請者募集中！

(信州の環境にやさしい農産物認証取得チャレンジ・ステップアップ支援事業(推進事業))

長野県では、化学肥料や化学合成農薬を低減した環境にやさしい農業の拡大や発展、
「信州の環境にやさしい農産物認証」の取得に向けた取組の必要経費を支援しています。
環境のやさしい農業の波及に向け地域で活動されている皆さま、ぜひご活用ください！

【申請受付期間】令和6年4月24日(水)～12月20日(金)

※本年度予算の上限に達し次第、受付終了

【申請対象者】

「信州の環境にやさしい農産物」について
“R6年産認証を受けている” または
“R7年産認証の申請を予定している” 方

支援金額

定額5万円

(※11名以上の取
組で8万円)

「信州の環境にやさしい農産物認証」って？

地域の一般的な栽培方法と比べて、化学肥料と化学合成農薬の使用量を原則50%※
以上減らしてつくられた農産物を「信州の環境にやさしい農産物」として長野県知
事が認証する制度です。

認証された農産物には、認証票(シンボルマーク)の使用が許可されます。

※果樹の一部品目においては、30%の特例があります。



どんな取組みに使えるの？

- ・環境にやさしい農業の栽培技術講習会
- ・環境にやさしい農業に先進的に取り組む農業者や地域の視察
- ・環境にやさしい農産物を取り扱う店舗や直売所等の視察
- ・環境にやさしい農産物のPRや販路拡大に向けた商談会やマルシェ等への参加 など
「こんなことにも使えますか？」という取組みがありましたら、随時御相談ください。



←応募方法や信州の環境にやさしい農産物認証の詳細は、長野県HPをCheck!

※アクセス解析のためにCookieを使用しています。

アクセス解析は匿名で収集されており、個人を特定するものではありません。この機能はCookieを無効にすることで収集を拒否することができますので、お使いのデバイスのブラウザの設定をご確認ください。

◎申請にあたっては、お近くの農業農村支援センターまでご相談ください！

＜お問い合わせ先＞

○佐久農業農村支援センター	TEL : 0267-63-3147	○上田農業農村支援センター	TEL : 0268-25-7126
○諏訪農業農村支援センター	TEL : 0266-57-2913	○上伊那農業農村支援センター	TEL : 0265-76-6813
○南信州農業農村支援センター	TEL : 0265-53-0413	○木曾農業農村支援センター	TEL : 0264-25-2220
○松本農業農村支援センター	TEL : 0263-40-1916	○北アルプス農業農村支援センター	TEL : 0261-23-6511
○長野農業農村支援センター	TEL : 026-234-9514	○北信農業農村支援センター	TEL : 0269-23-0209